

電気設備工事業のリーディングカンパニー東北電化工業(株)

確かな技術力で暮らしの安全を守る 創立75周年、活躍する女性社員

本県電気設備工事業界のリーディングカンパニー東北電化工業(株)が、ことし4月で会社創立75周年を迎える。戦後間もない混乱の時代にわずか数人でスタートし、現在は380人超の社員を抱える企業に発展。一般住宅から公共施設、学校、オフィスビルをはじめ道路・トンネル照明など私たちの暮らしを支えている。會津圭一郎代表取締役社長に次代を担う若手の人材育成、女性技術者の活躍、社会貢献など同社の歩みとともにうかがった。

東北電化工業株式会社

山形市青田三丁目9番18号(代表) 023-623-0611
 創業昭和20年8月 会社設立昭和22年4月
 資本金7,500万円 代表取締役社長會津圭一郎 従業員384名
 売上高 令和2年度107億23百万円

「現場では若い世代が先輩に学び、活躍していると聞きます。」

會津社長 人材は当社の財産であり、人材育成への投資は惜しみません。毎年、20人前後の新入社員を採用し、3カ月間の集合研修を経て配属、先輩社員を専属トレーナーとしてマンツーマンの指導(OJT研修)や、さらに私が代表理事を務めている山形県電気工事工業組合の訓練校で専門知識を学んでいます。特に、業界に先駆けて10年以上前から女性技術者の養成に力を入れていま

す。文系の女性を含めて毎年数名採用し、電気工事士としての資格修得を支援しています。

電気工事には女性の視点が必要です。特に一般家庭といった小口工事など、お客さまが女性の場合は、女性の電気工事の方が安心される場合が多いのです。もちろん大きな現場や工場などで実際に材料や工具を使用し工事に携っているほか、施工計画や施工図の作成、工程・品質・安全管理といった管理業務とともに、設計者や発注者と打ち合わせを行うなど現場の第一線で活躍してい

ますし、先輩の姿を見て文系出身者でも入社1年目で難しいとされる第一種電気工事士の資格を取った社員もいます。こうした取り組みが評価されて、山形県が推奨する「やまがた子育て・介護いきいき企業」に認定されています。

当社は「男女に色はない」「仕事に色はない」「付加価値を見出し、くれる社員を育てたい」という人事方針のもと、営業職・事務職・技術職の給与体系は一律で、職種によって待遇が異なるということはありません。例えば技術職であった女性が

出産や子育てなどで休職し、事務職で復帰した場合でも待遇が変わらないため安心して復帰できますし、現場での経験が新たな職場でも生かすことができます。

「あらためて御社の歩みを紹介してください。」

會津社長 元々は蚕(かぐ)を温める電熱器を取り扱っていたようですが、戦後間もない昭和20年(1945)、祖父會津栄次郎が、安価な電力を利用し高圧で公衆浴場の湯を沸かすこ



東京オリンピック・パラリンピックの舞台となった国立競技場の工事に若手社員の多くが携った（左から2人目が會津社長）



電気工事士の資格を取得し現場の最前線で活躍する女性社員。結婚・出産後も働き続けることができるように人事制度を改革し山形県「やまがた子育て・介護いきいき企業（優秀：ダイヤモンド）」に認定されている

とを考え、数名の社員で「東北電化工業所」を山形市片町（現七日町）に創業しました。2年後に法人化して、27年に山形新聞社の電気設備工事、32年に山形駅前の商店街電気工事の大半を受注、29年から現在まで（株）ヤマザワさんの工事を一手に引き受けるなど、戦後の復興から高度成長期にかけて順調に業績を上げてきました。52年に国道13号沿いの現所在地に創立30周年記念を兼ねて新社屋を建設し、3代目社長高橋文夫氏のもとで、オイルショックを乗り越切り、成長への挑戦を開始しました。

平成に入り、当社を含め協力業者64社を会員とする「東北電化共栄会」を発足、平成8年（1996）に父會津久治郎が4代目社長に就任し、会長となった高橋氏と共に新体制を敷き、完成工事高100億円企業を目指し経営陣を刷新しました。私は平成18年（2006）に第5代目の社長となり、山形県内、宮城、福島、東京にも拠点を展開し、総合電気設備業として地域経済の発展、インフラ整備、市民生活の安全・安心といった社会的責任の一端を担わせていただいています。

「経営理念の冒頭に「地域と共に発展する」と掲げています。

會津社長 申すまでもなく電気は

（次ページに続く）



児童養護施設の子どもたちに毎年クリスマスイルミネーションをプレゼント。設置・取り付け・撤去を行う



モンテディオ山形選手の登録映像やゴール演出などを映像配信するLEDリボンビジョンを設置する

私たちの日常生活に必要な不可欠なものです。その電気を発電所や変電所からそれぞれの設備（一般住宅・オフィスビル・学校・工場・病院といった建築物）や道路やトンネル照明等のインフラ、ライトアップといったイベントまで届ける道をつくるのが電気工事です。

また、災害の多い日本では災害時にライフラインを使えなくなることであります。このときに電気の復旧に当たるのも電気工事士の重要な仕事で、東日本大震災に際しては病院やスーパーマーケットの復旧作業に取り組みました。

併せて「地域と共に発展する」を経営理念に掲げ、電気設備工事として自分たちができることは何かを考えています。その一つが山形県内5カ所の児童養護施設に毎年行っているクリスマスイルミネーション寄贈です。平成19年に会社創立60周年記念事業の一環として始めましたが、贈るだけでなく取り付け・取り外し・保管を社員が行っておりまして。子どもたちはもちろん地域の人たちに喜ばれ、施設を巣立った子どもたちも駆けつけてくれます。社員もまた「点灯の瞬間、子どもたちの大きな歓声とはしゃぐ姿にうれしく

なりました。作業を通して子どもたちとふれあい、笑顔に元気をもらった」と話してくれています。

今年4月には会社創立75周年を迎えます。

會津社長 地域の皆様をはじめ各諸官庁、各建設会社、電材メーカーの力添えをいただいでグループ12社、全従業員数約560人を有する企業に成長することができました。新型コロナウイルス禍にありますが大小合わせて年間2万件の工事に携っています。昨年の東京オリンピック・パラリンピックの舞台となった国立競技場の工事には、若手が手を挙げて最先端の現場を体験し技術を学んできました。経験あるベテランの技術と指導力、若い世代の前向きな姿勢は頼もしい限りです。

また、人材育成とともに社内LANの構築、グループポータルサイトの運用、施工管理システムによる工事の引き合いからアフターフォローまでの一元管理、社内会議・打ち合わせ・研修・講習・セミナーでのリモートの積極活用などデジタル化への対応も進んでいます。75周年にあたって、テレビCMでも紹介いたしますように「電気のトラブルおまかせください、迅速に対応します」を実践していきます。

人材確保と
雇用安定のための

山形市雇用対策協議会

会員募集中

山形市雇用対策協議会は昭和46年に設立し、労働関係行政機関、諸団体との緊密な連携のもとに、労働力の確保及び雇用の安定を図り、地域産業の発展に寄与することを目的として、新規学卒就職者の激励大会、優良従業員表彰をはじめ各種事業を実施しています。ただ今、会員を募っております。

当協議会ホームページ「緑の職場」（山形商工会議所ホームページ内）にて、会員企業の企業情報公開やリンク集にて雇用関連の情報提供を行っております。

山形市雇用対策協議会ホームページ



詳しくは

山形市雇用対策協議会

検索

ご入会・問い合わせは

TEL 6 2 2 - 4 6 6 6 商工振興課